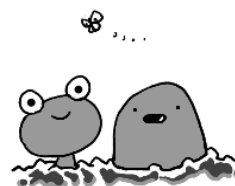


みんなで読んで、わが子のための学童保育を考えよう

# 月刊『日本の学童ほいく』 普及・拡大の手引き



2013年 全国学童保育連絡協議会

わが子が毎日、「ただいま！」と帰ってくる学童保育、安全で安心して生活できる学童保育をつくるために、保護者と指導員が一緒になって力をあわせる 月刊『日本の学童ほいく』は、創刊（1974年）から一貫して、このことを大切にしてきました。

私たちは、『日本の学童ほいく』をとおして「一人で悩まないで、子育ては学童保育を土俵にみんなでできるんだよ」「どの子も安心できる生活のなかで、ゆっくりでも必ず育っていくんだよ」というメッセージを送り続けてきました。

「子育て」や「子育て」が難しい時代だと言われているいま、一人でも多くの保護者と指導員の仲間にこのメッセージを届けたいと思います。

2013年4月号で452号を迎えた『日本の学童ほいく』は、全国各地の保護者と指導員など約4万2000人の方々が年間定期購読されています。でも、学童保育に子どもを通わせている家庭と指導員の合計数約95万人からみれば読んでいる方はまだ一部です。私たちは、多くに普及し、学童保育のあり方を伝え、よりよい学童保育を作りたいと願っています。

ますます学童保育を必要とする家庭が増えています。東日本大震災の被災地でも入所児童数が増えています。わが子が安全に安心して毎日の生活をおくることができる学童保育を求める声と期待が、さらに大きくなっているのです。

政府は、学童保育の入所児童数を5年間で30万人増やす目標を立て（2010年1月29日「子ども・子育てビジョン」）、学童保育の国の制度の見直しが検討されています（市町村事業として位置づけ、最低基準も決める方向で検討中）。しかし、「地域主権改革」と称して「地域の实情に応じて」市町村の自由裁量に任せ、補助金も「一括交付金化」するなどのたいへん危惧する動きもあります。

全国学童保育連絡協議会は、学童保育の量的・質的な拡充を求めて、国と自治体に保護者・指導員の願いを届ける運動に取り組んでいます。同時に、『日本の学童ほいく』を多くの方々に広め、そして読まれることが、よりよい学童保育をつくっていく大きな力になります。

みなさんの連絡協議会で『日本の学童ほいく』の魅力や役割を明らかにし、一人でも多くの学童保育関係者や父母会・保護者会、指導員会の方への購読の呼びかけに役立つよう、この「普及・拡大の手引き」を作成しました。活用していただければ幸いです。

# 身近で役立つ『日本の学童ほいく』

『日本の学童ほいく』はすべての保護者、指導員に読んでいただきたい雑誌です。

この雑誌は、次のように役立つ雑誌です。

## 働きながらの子育てに役立つ雑誌です

毎号の特集では、「子どもとコミュニケーション」「子どもの発達」「低学年と高学年」など、日頃、保護者の悩みや子育ての話題を取り上げ、保護者・指導員のレポートや専門家のアドバイスなどを載せています。また、共働きやひとり親で子育てをする保護者の率直でリアルな声がたくさん載っています。

さらに、全国の学童保育を紹介するグラビア、子どもの作文、子ども質問コーナー、クイズ、マンガ、「身近に観察・昆虫の姿」など親子で読めるページもいっぱいあります。



## 指導員の実践（生活づくり）に役立つ雑誌です

「子どもの発達と学童保育の生活」「保護者と指導員のかかわり」「指導員の仕事」など、学童保育の基本に関わるテーマや、学童保育での遊び、宿題、行事など保育の課題を取り上げて、ベテランから新人指導員まで、役立つ内容がいっぱいです。研究者の理論的な解説なども掲載し、指導員の悩みや疑問に答えています。

## 保護者と指導員の共感をつくるのに役立つ雑誌です

学童保育を支える両輪ともなる保護者と指導員が、お互いに理解しあい、協力しあう関係を正面から見つめる特集も組んでいます。指導員の実践報告を保護者が読み、保護者の手記を指導員が読むことで共感が広がることを願って、編集されています。

## 学童保育をよくする活動に役立つ雑誌です

「学童保育がほしい」「学童保育をもっと良くしたい」などの課題に応える情報やノウハウを載せています。また、国や自治体の動き、各地での取り組み、そして、全国学童保育連絡協議会の催し物など、最新の情報を掲載しています。

学童保育の施策や実態は地域によってさまざまです。保護者も指導員も自分たちの学童保育が学童保育のすべてだと思いがちです。『日本の学童ほいく』を通して学童保育の問題や課題を広い視野から見直してみましよう。



# 月刊『日本の学童ほいく』を 学童保育運動で大切にしているのは

全国連絡協議会の機関誌で、日本で唯一の学童保育の専門雑誌です

よりよい学童保育づくりのために保護者や指導員たちが、各地で運動をすすめています。全国学童保育連絡協議会は、その全国ネットワークとして1967年に誕生した、学童保育の発展をめざして交流・研究・情報交換をしながら運動する当事者の団体です。

『日本の学童ほいく』は、この保護者・指導員の願いを実現するために1974年6月に創刊された全国学童保育連絡協議会の機関誌であり、また学童保育をテーマとする日本で唯一の専門雑誌でもあります。



読者である保護者・指導員が自らつくっている雑誌です

毎号、保護者と指導員が書いたレポートがたくさん載っています。一般の雑誌とは違い、子どもを通わせる保護者と指導員を書き手として、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実を願う立場で作られています。

この立場から、特集の企画は、保護者・指導員で構成する編集委員会が毎月の特集テーマについて討議を重ねてつくっています。



学童保育をよくする活動の財政を支えています

<本誌の収入が全国学童保育連絡協議会の財政の9割以上を占めています>

全国学童保育連絡協議会は、学童保育の制度化と施策の改善を求めて、国や、自治体、関係諸団体、マスコミに対して働きかけています。また、全国の学童保育の情報を収集し、地域の連絡協議会や父母会・保護者会に情報を提供しています。

『日本の学童ほいく』の売り上げは、こうした活動を財政面でも支えています。全国学童保育連絡協議会はこの収入によって、事務所を置き、専従職員（現在は正規6人体制）を配置しての活動が可能になっています。

<地域の連絡協議会などにも還元金>

本誌の購読を取りまとめている地域の連絡協議会などには、購読部数に応じて還元金があります。地域の連絡協議会の活動費の大きな財源となっています。なかには、この収入を財源にして、事務所を置き、専従職員を配置して活動しているところもあります。



# 普及・拡大のすすめ方

連絡協議会として普及・拡大に取り組むには、以下の点を留意してすすめましょう。

## ① 連絡協議会の自らの課題として位置づけましょう

都道府県と市町村の学童保育連絡協議会の役員すべてが『日本の学童ほいく』の位置づけと役割を理解できるよう十分論議し、普及・拡大を自らの大事な課題として位置づけ学童保育や父母会・保護者会の役員や保護者に働きかけることが出発点です(2ページ参照)。



## ② 現状を詳しくつかみ、普及・拡大の計画を立てましょう

計画を立てるには、まず実態の把握が必要です。連絡協議会では、学童保育別に指導員、父母会・保護者会役員、そして保護者全体の購読状況および配布、集金の状況を把握する「実務」を確実に行うことはすべての基礎になります。そのうえで、父母会・保護者会と普及・拡大の計画を、豊かな連絡協議会活動に結びつく長期的な見通しも含めて作成しましょう。そして、だれがだれに購読の呼びかけをするのかなども含めた短期・中期の計画を順次実施し、すべての保護者・指導員が購読する「全員購読」に結びつけましょう。

また、連絡協議会に加盟していない学童保育、あるいは学童保育が必要という保護者にも、『日本の学童ほいく』の購読を呼びかけましょう。さらに、加盟・未加盟を問わず、すべての指導員に購読を働きかけましょう。

## ③ 役員会に普及・拡大担当者を置いて独自に追求をしましょう

「普及・拡大」と「配布・集金」の実務担当が兼任であると、実務に追われてしまいがちです。普及・拡大は、「実務」で把握した実際にたち、独自に追求しなければすまない課題です。連絡協議会では、役員会で位置づけ、役員の「実務」と普及拡大の担当をおきましょう。父母会・保護者会でも、役員の『日本の学童ほいく』担当を決めましょう。

都道府県の連絡協議会では、市町村の連絡協議会や父母会・保護者会の担当者向けのニュースを発行し、担当者の会議を必要に応じて開催し、経験を交流しましょう。

\*全国連絡協議会作成の「普及拡大推進ニュース」をデータ版で発行します。地域版ニュースに取り込みおおいに広め、活用してください。

## ④ 期間を限って重点的に普及・拡大に取り組みましょう

新入保護者への呼びかけは、4月～5月の時期が大事です。学童保育への期待と不安のある時期でもあり、期間を定めて重点的として取り組みましょう。新しい保護者には、全員に必ず購読を呼びかけましょう。



入所説明会でチラシや見本誌を配布するなど早い時期から取り組みましょう。また、月ごとの特集企画を紹介するなどの継続的な働きかけも必要です。年度末の3月には、購読継続の確認をしましょう。

## ⑤ 『日本の学童ほいく』の内容を広く知らせましょう

連絡協議会のニュースなどの発行物に、『日本の学童ほいく』の広告、紹介記事を盛り込むことをお願いします。また、おもしろかった記事、役立つ記事などの感想文を載せる

とイメージも広がり身近に感じられるでしょう。『日本の学童ほいく』や全国学童保育連絡協議会のニュースには、これからの企画や原稿募集が載ります。連絡協議会や父母会・保護者会のニュースで紹介するのもよい方法です。

## ⑥ 『日本の学童ほいく』をいろいろな場面で活用しましょう

452号を数える『日本の学童ほいく』のバックナンバーを探せば、父母会・保護者会や指導員会、地域連絡協議会で論議している課題に、参考になる記事やレポートが必ずみつかるとは限りません（バックナンバーの特集テーマはホームページに掲載してあります）。

また、毎月の父母会・保護者会や地域連絡協議会の会議、指導員の集まりで『日本の学童ほいく』の感想を短時間でも出し合うことは、本誌を生かすいい機会になります。

（その感想を全国連協にお知らせください。誌面の改善の参考にします）



## ⑦ 『日本の学童ほいく』に投稿しましょう

『日本の学童ほいく』の「読者のひろば」のコーナーでは、随時、さまざまな声を募集しています。また、「モニター制度」も、ぜひ活用してください。保護者や指導員が『日本の学童ほいく』に投稿することで、雑誌の内容も充実しますし、地域の保護者・指導員のレポートや記事が載ることで、いっそう身近な雑誌となります（「読者のひろば」や「子どものひろば」等に掲載されれば500円の図書カードを送ります）。

全国学童保育連絡協議会のホームページからも投稿できます。

ホームページアドレス <http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou>

## ⑧ 連絡協議会に加盟していない学童保育や地域に働きかけましょう



連絡協議会がない、あっても加盟していないところでは、「学童保育とは何か」「必要な条件整備とは」「指導員の仕事と役割とは」などが分からないまま実施されていることが少なくありません。いろいろな機会を通じて連絡協議会がたがかりをつくり、加盟の働きかけと合わせて取り組みましょう。新設された学童保育には見本誌なども活用して、積極的・継続的に購読を呼びかけていきましょう。

また、父母会・保護者会がない学童保育であれば、長期的な視点で父母会・保護者会づくりにも取り組み、『日本の学童ほいく』の購読呼びかけが相乗効果となるような工夫もしましょう。

## ⑨ 配布・集金の実務体制を整備しましょう

配布・集金の実務が滞ることは購読減に直結します。迅速で正確な体制が確立され維持されるよう、連絡協議会で担当者を配置し、父母会・保護者会に対しては必要な援助を行いましょ。特に、年度の切り替え時は、担当者の交替なども重なって実務が滞りがちになります。注意が必要です。「実務」を通して実態を把握することは、「どこにどのように広める」ことが必要かなど普及拡大の基礎資料を手にすることです。「実務」をあれこれの一つとせず体制を作って取り組みましょ。



# 一人ひとりの指導員、保護者会役員から連協役員も、購読者を広げる6つのポイント



## ① まずご自分で読んでください

人にすすめるとき、自分で読んでみなければ難しいものです。多くの記事が、保護者や指導員が悩みや喜びを綴った内容です。共感できるページが必ずあります。子どもの作文やイラストは見ていて心が和みます。まずは役員・指導員が読み、「みんなに読んでもらおう」と、一步を踏み出してください！

## ② 読んで良かったところを紹介し、話題にしてください

コツのひとつは、父母会・保護者会の話し合いで、「これは『日本の学童ほいく』に出ていたんだけど」「『日本の学童ほいく』ではこんな学童保育が紹介されていたよ」「『日本の学童ほいく』のこの記事が役に立った」と、掲載された内容を通して、本誌の魅力や役立つことを知らせていくことです。

また、父母会・保護者会で、読んだ感想を紹介しあうのも効果的です。指導員は、父母会・保護者会だけでなく、指導員会や指導員同士の打ち合わせにも、そうした視点で活用しましょう。

## ③ 一人ひとりの保護者や指導員に直接、お願いして

一人ひとりの保護者や指導員に声をかけてみれば、相手の子育ての悩みが聞け、新たな人間関係ができることもあるでしょう。知り合うことが、仲間づくりの第一歩です。この本をすすめて、そのきっかけを作りましょう。

## ④ 指導員は、もっといろいろな方法で活用して

指導員は、「連載講座」を読み合わせる、特集や「実践ノート」を集団で検討する、「たのしいな」を実際にやるなど、仕事と直接関わってさまざまな方法で活用しましょう。

また、保護者に指導員から「いっしょに読みませんか」と声をかけ、ともに子育てをの思いも伝わり、お互いの関係をつくる良い機会です。ぜひ指導員から保護者にすすめてください。

## ⑤ 父母会・保護者会で「全員購読」を決める

この手引きの2ページにある「身近で役立つ」でふれたように、本誌を、多くの保護者が読むことで、父母会・保護者会の共通の話題ができたり、話し合いが深まったり、盛り上がったりします。

また、本誌には還元金があり、学童保育をよりよくしていくうえで欠かせない連絡協議会などの活動を、財政的に支援することができます。

総会の時に「全員購読」を決めている学童保育も少なくありません。できるところから「全員購読」にも取り組みませんか。すでに「全員購読」のところでは『日本の学童ほいく』を身近なものとする努力を重ね、保護者の集まる機会の読み合わせや感想の出し合いを事前に準備するなど計画的に進めましょ



う。そして毎年、「なぜ全員購読しているのか」その意義と「全員購読」の継続を確認しましょう。この話し合いを通して、学童保育に対する親の願いや課題も深めましょう。

父母会・保護者会で1冊だけ購読してみんなで回覧しているところがあります。1冊程度だと、順番がなかなか回ってこず、忘れられたり、購読の意味が薄れたりします。ぜひ役員は一人ひとりが購読しましょう。また会員全員で購読することを呼びかけましょう。

## ⑥『日本の学童ほいく』を身近に感じる「投稿」「ポスター」

『日本の学童ほいく』の「読者のひろば」では、さまざまな声を募集しています。保護者や指導員が便りを送ってくことで本誌の内容は充実します。同じ地域や学童保育の保護者・指導員のレポートや記事が載ることによっていっそう身近な雑誌となります（「読者のひろば」などに投稿などが掲載された方、「こどもランド」クイズの当選者には図書カードを送っています）。

また、『日本の学童ほいく』のカレンダー（ポスター）を学童保育の入口などに貼っておくと、お迎えに来た保護者と、話題にし、意識されるきっかけになります。貼り出せないところでも、父母会・保護者会の会場に貼り出してはどうでしょうか。



## 2013年4月号からの特集テーマはこれです！

\*4月号から10月号は特集のタイトルです。11月号以降は特集内容にあったタイトル名をこれからつけます。

**4月号** 新生活——仕事・子育て・学童保育

**10月号** 学校と学童保育

**5月号** 「れんらくきょうぎかい」ってなんですか

**11月号** 指導員という仕事

**6月号** 学童保育の生活——大切にしたいこと

**12月号** 高学年の子どもたち

**7月号** たのしく食べるおいしく食べる

**1月号** 父母会・保護者会

**8月号** 市町村の基準づくりを考えよう

**2月号** 第48回全国学童保育研究集会in岡山

**9月号** 子どもの気持ちに気づく

**3月号** 子どもの権利条約

すすめるためのキャッチコピーをつくってみませんか。例えば～

- 「毎月、コーヒー1杯の値段で、子育ての知恵がいっぱい！」
- 「手元があればいつでも読めるmy『日本の学童ほいく』」
- 「元気になる言葉（記事）がいっぱい載ってるよ！」
- 「行き道に読めば元気になれる、帰り道に読めばやさしくなれる」
- 「お金は財布が出すんじゃない。心が出すんだ」
- 「新しい出会い、人の輪（和）が広がる『日本の学童ほいく』」



## ★見本誌・チラシ・カレンダー付きポスターがあります★

- 見本誌があります。必要な場合は、全国学童保育連絡協議会もしくは地域の連絡協議会に問い合わせてください。本誌のバックナンバーを見本誌としてお分けしています。
- チラシとカレンダー付きポスターも用意しました。チラシは、学童保育関係者が集まる機会などにも配布できるようお分けしています。ポスターは年間を通して活用できるようカレンダー付きですから、学童保育の室内や玄関等に貼ってください。こちらでも地域の連絡協議会もしくは全国学童保育連絡協議会に問い合わせてください。
- 普及の取り組みや読者の反響などを普及拡大推進ニュース「よかたいニュース（読んで、語って、楽しみながらいっぱいひろめてニュース）」でも紹介しています（7月まで不定期に刊行）。みなさんの体験や地域の取り組み、ステキな話があれば、ぜひ教えてください。
- 『日本の学童ほいく』に関する問い合わせやご意見などもお寄せください。お手紙・ファクス・メール、どれでも結構です。

<地域の連絡協議会がつくっているニュースなど>

横浜学童保育連絡協議会 機関紙 [http://www.d3.dion.ne.jp/~hama\\_gkd/](http://www.d3.dion.ne.jp/~hama_gkd/)

**ほいく詰まるがじり**

「日本の学童ほいく」を一人でも多くの手に!!!

第2回『日本の学童ほいく』誌 担当者会議報告  
購読を希望する皆様は、  
ぜひ山形県学童保育連絡協議会に  
お問い合わせください。

日本の学童ほいく  
**よかたいニュース**  
読んで 語って 楽しみながら いっぱいひろめて

丸幌版  
2013年 1月 15日  
発行：市建協  
保育誌普及担当

『日本の学童ほいく』  
普及・拡大ニュース No. 170  
(2013. 2. 16)  
発行 石川県学童保育連絡協議会  
- 2013年1月15日発行 -

日本の学童ほいく 2月号がおもしろい  
唯一の学童保育の月刊誌!!

日本の学童ほいく  
**いっしょに読んでみよう** No.55

日本の学童ほいく 読者のために、広げよう!  
学童保育を楽しもう!  
県連協・県指導員連協加盟クラブ向けリーフレット

全国学童保育連絡協議会 『日本の学童ほいく』編集部  
〒113-0033 東京都文京区本郷2の26の13 TEL 03(3813)0477 FAX 03(3813)0765  
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou> Eメール zghrk@xui.biglobe.ne.jp